

第7班

戦時下日本の国策紙芝居研究

(1) 共同研究員名

研究代表者：安田常雄

共同研究員：大川啓

客員研究員：大串潤児 森山優

研究協力者：小山亮 新垣夢乃 松本和樹 原田広 鈴木一史 富澤達三

(2) 研究目的

本研究は、戦時下国策紙芝居の図像、担い手、地域での上演などの実態分析などを通して、戦時下大衆文化の構造や機能を検証し、戦時体制の特質を再検討することを目的とする。具体的には、第四期の成果『国策紙芝居からみる日本の戦争』（勉誠出版、2018）を継承しつつ、未発見の紙芝居資料の発掘に努めるとともに、さらに分析を深め、より広い視角から多様な問題を深めることが課題である。たとえば第一には、拠点の一つであった北海道紙芝居など地域での活動を明らかにすること。こうした国内各地域における担い手や上演の機能分析は、継続的な課題となっている。第二には、台湾で着手した植民地紙芝居の分析を、朝鮮半島や中国占領地、さらに東南アジアなどに拡張すること。第三は、国内・植民地を通して、同時代の大衆文化（映画・演劇・写真・漫画など）との関係を比較検討すること。こうした成果を、研究会・シンポジウムなどで共有しつつ、新たな研究成果のまとめを展望したいと考えている。

(3) 活動経過

○方法

- 現地調査の実施：戦時期に制作された紙芝居は1500～2000作品に及ぶといわれている。その全貌を明らかにするために未発見資料、関連資料の収集を基礎的な調査・研究方法として研究の深化を図る。
- 班内研究会による資料分析と課題把握：定期的に班内において研究会を実施し、現地調査によって得られた資料の分析と課題把握を行い研究の深化を図る。
- 公開研究会の開催：外部の研究者・研究機関との研究交流を行い、その成果をもとに公開研究会を開催し研究の深化を図る。

2020年度

○研究・調査経過

- 2020年11月6日～7日：浅間縄文ミュージアムにて現地調査
- 2020年11月29日：川越市立博物館、小山市立博物館にて現地調査

2021年度

○研究・調査経過

- 2021年11月13日～15日：香川県立ミュージアム、横山隆一記念まんが館、平和資料館草の家に
て現地調査
- 2022年3月7日～8日：京都市学校歴史博物館、西宮神社、大阪樟蔭女子大学にて現地調査

2022年度

○研究・調査経過

- 2022年5月5日～7日：土崎港被爆市民会議、大館郷土博物館、斜陽館にて現地調査
- 2022年5月7日～9日：舞鶴引揚記念館、京都府立丹後郷土資料館、舞鶴こども園にて現地調査
- 2022年5月11日：国立台湾歴史博物館との学術上の協力に関する覚書を締結
- 2022年5月12日～15日：各務原市歴史民俗資料館、田原市博物館、真宗大谷派名古屋教区教化セ
ンター、瑞浪市民図書館、富士文庫にて現地調査
- 2022年6月10日～12日：人形劇の図書館、滋賀県平和祈念館、京都市学校歴史博物館にて現地調
査
- 2022年10月8日～9日：滋賀県平和祈念館、長浜城歴史博物館、長浜図書館にて現地調査
- 2022年11月12日～14日：熊本・福岡にて現地調査

(4) 研究成果（成果物、獲得された知見、収集資料の解題等）

2020年度

- 現地調査の実施：現地調査3カ所 新規発見5点 所蔵判明1点
 - ・浅間縄文ミュージアム（長野県北佐久郡御代田町）
 - ・小山市立博物館（栃木県小山市）新規発見4点 所蔵判明0点
 - ・川越市立博物館（埼玉県川越市）新規発見1点 所蔵判明1点

- 班内研究会による資料分析と課題把握：1回開催
 - ・2021年3月6日（ハイブリット形式）開催

現地調査の成果の共有とともにコロナ禍の活動方法について議論。現地調査の成果や調査のなかで出会った各地域の関係者を執筆者に招き、研究交流の「広場」となるブックレット刊行を構想し議論した。

- 公開研究会の開催：0 回開催
 - ・ 公開研究会「戦時下紙芝居と現代人形劇の交差点」開催を計画（中止）

プロの人形劇演者であり人形劇研究者である瀧見英明氏等を招き、近代の新興芸術から子どもと戦争の関係を問う内容を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症流行の影響により延期となった。
- 論文等研究成果：2 編
 - ・ 原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語―「登場人物編」その 1」『非文字資料研究センター News Letter』44、2020 年
 - ・ 原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語―「登場人物編」その 2―現代（昭和前期）前篇―」『非文字資料研究センター News Letter』45、2021 年

2021 年度

- 現地調査の実施：現地調査 5 カ所 新規発見 10 点 所蔵判明 0 点
 - ・ 香川県立ミュージアム（香川県高松市）新規発見 2 点 所蔵判明 0 点
 - ・ 横山隆一記念まんが館（高知県高知市）
 - ・ 平和資料館草の家（高知県高知市）
 - ・ 京都市学校歴史博物館（京都府京都市）新規発見 1 点 所蔵判明 0 点
 - ・ 大阪樟蔭女子大学神村朋佳研究室（大阪府東大阪市）新規発見 7 点 所蔵判明 0 点
- 班内研究会による資料分析と課題把握：1 回開催
 - ・ 2021 年 4 月 10 日（ハイブリット形式）開催

成果報告書刊行に向けた協議、国立台湾歴史博物館との協定締結に向けた覚書内容の確認、2021 年度の現地調査計画について協議を行った。
- 公開研究会の開催：0 回開催
- 論文等研究成果：7 編
 - ・ Tsuneo Yasuda, 'The Pacific War and Kamishibai', Fanning The Flames Propaganda in Modern Japan, California: Hoover Institution Press, 2021
 - ・ 大串潤児「軍隊と紙芝居」吉田裕編『戦争と軍隊の政治社会史』大月書店、2021 年
 - ・ 原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語―「登場人物編」その 3―現代（昭和前期）後編―」『非文字資料研究センター News Letter』46、2021 年
 - ・ 大串潤児「国策紙芝居―長野県御代田町・栃木県小山市調査」『非文字資料研究センター News Letter』46、2021 年
 - ・ 原田広「国策紙芝居―川越市立博物館調査」『非文字資料研究センター News Letter』46、2021 年

- ・原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語―「登場人物編」その4―近代（明治・大正）前編―」『非文字資料研究センター News Letter』47、2022年
- ・大串潤児編『国策紙芝居―地域への視点・植民地の経験』神奈川大学評論ブックレット41、御茶の水書房、2022年

2022年度

- 現地調査の実施：現地調査19カ所 新規発見27点 所蔵判明12点
 - ・土崎港被爆市民会議（秋田県秋田市）新規発見1点 所蔵判明0点
 - ・大館郷土博物館（秋田県大館市）新規発見1点 所蔵判明0点
 - ・斜陽館（青森県五所川原市）
 - ・舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市）
 - ・京都府立丹後郷土資料館（京都府宮津市）
 - ・舞鶴子ども園（京都府舞鶴市）新規発見5点 所蔵判明2点
 - ・各務原歴史民俗資料館（岐阜県各務原市）新規発見3点 所蔵判明3点
 - ・田原市博物館（愛知県田原市）新規発見1点 所蔵判明0点
 - ・真宗大谷派名古屋教区教化センター（愛知県名古屋市）新規発見1点 所蔵判明1点
 - ・瑞浪市民図書館（岐阜県瑞浪市）新規発見1点 所蔵判明1点
 - ・富士文庫（静岡県富士市）新規発見1点 所蔵判明2点
 - ・人形劇の図書館（滋賀県大津市）新規発見7点 所蔵判明3点
 - ・滋賀県平和祈念館（滋賀県東近江市）
 - ・京都市学校歴史博物館（京都府京都市）
 - ・滋賀県平和祈念館（滋賀県東近江市）新規発見3点 所蔵判明0点
 - ・長浜城歴史博物館（滋賀県長浜市）
 - ・長浜図書館（滋賀県長浜市）
 - ・上村真理子氏宅（熊本県宇城市）新規発見3点 所蔵判明0点
 - ・筑前町立太刀洗平和記念館（福岡県筑前町）
- 班内研究会による資料分析と課題把握：0回開催
- 公開研究会の開催：1回
 - ・2023年2月28日（ハイブリット形式）公開研究会「植民地台湾の紙芝居―国立台湾歴史博物館コレクションからみえてくるもの」開催
 植民地台湾の紙芝居研究のパイオニアである陳涵郁氏（国立台湾歴史博物館）と邱昱翔（大阪公立大学）を招き、現在の台湾の研究者たちが紙芝居をどのように見つめているのかを示す公開研究会を開催した。

• 論文等研究成果：7 編

- ・ 原田広「国策紙芝居調査—四国（香川、高知）地区」『非文字資料研究センター News Letter』48、2022 年
- ・ 原田広「国策紙芝居調査—関西（京都、大阪）地区」『非文字資料研究センター News Letter』48、2022 年
- ・ 原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語—「登場人物編」その 5—近代（明治・大正）後編—」『非文字資料研究センター News Letter』48、2022 年
- ・ 展示会「植民地台湾の紙芝居パネル展—国立台湾歴史博物館コレクション」開催（於神奈川県大学みなとみらいキャンパス、2023 年 2 月 1 日～28 日）
- ・ 鈴木一史「「戦時下日本の国策紙芝居研究」班 熊本資料調査報告」『非文字資料研究センター News Letter』49、2023 年
- ・ 原田広「戦意高揚紙芝居コレクションにみる戦時下用語—「登場人物編」その 6—近世（江戸時代）前編—」『非文字資料研究センター News Letter』49、2023 年
- ・ 神奈川県日本常民文化研究所非文字資料研究センター編『国策紙芝居地域調査報告 非文字資料研究センター News Letter』49 別冊、2023 年

(5) 今後の課題と展望

第五期（2020-2022 年度）共同研究は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、第四期からの継続の断絶、再開、再展開の時期となった。

そのなかで、研究目的として掲げた未発見資料発見については新規発見 42 点、所蔵判明 13 点の成果があった。

また、課題であった国内各地域における担い手や上演の機能分析については、ブックレット『国策紙芝居—地域への視点・植民地の経験』と『国策紙芝居地域調査報告 非文字資料研究センター News Letter』（49 別冊）の刊行によって各地の紙芝居の担い手の姿が浮かび上がってきたため一定の進捗があったと考えている。

さらに、植民地紙芝居の分析については国立台湾歴史博物館との覚書締結により同館所蔵の紙芝居データの提供を受け、研究環境を充実することができた点で進捗があった。また、覚書締結をきっかけとして公開研究会を開催できたことは植民地紙芝居の分析という点においても進捗があったと考える。

今後の課題としては、未発見資料や関連資料の発掘、各地域における紙芝居の担い手や上演の機能分析が継続的な課題となる。ただ、これまでの現地調査により一定の資料が蓄積されてきた面もあり、これらの資料の分析のために班内研究会での議論をいかに活発化させるかが課題となる。班内研究会の活発化とあわせて、コロナ禍に断絶した台湾、韓国などの研究者や研究機関との交流、外部の研究者や研究機関との交流を再開することで研究の深化と研究成果の公開を進めることが課題となる。以上の課題を示すことで今後の展望としたい。